

# チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

## 幼児の言葉の発達を考える

就学前の巡回相談では、「発音が不明瞭である、言葉の発達が気になる」等、言葉に関する質問を受けることがあります。そこで、子どもの言葉の発達について考えてみます。

### 1 言葉が発達していく五つの条件

- ① 耳の聞こえに影響がないか
- ② 言われていることに注意が向くか、理解しているか
- ③ 視線が合い、やりとりを楽しんでいるか
- ④ 指差しをして、同じものに注意が向くか
- ⑤ 見立て遊びや模倣行動をしているか



この五つの条件が整っている場合は、言葉が発達していく可能性が高いといわれている。

### 2 赤ちゃん言葉について

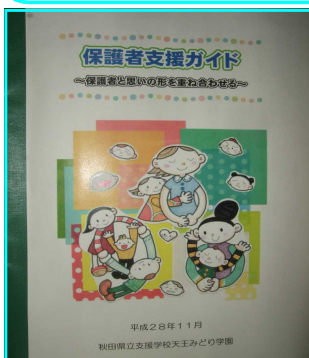
- ・ 赤ちゃん言葉は、あとで教え直す必要があり、子どもが混乱して負担がかかるという意見がある。しかし、親が赤ちゃん言葉で話していた赤ちゃんは、そうでない赤ちゃんと比べて3倍も多く言葉を覚えていたという結果がある。
- ・ 赤ちゃん言葉で接するとき、自然と優しく、ゆっくりと話すようになる。赤ちゃんと同じ目線、分かりやすく接してあげたい気持ちが、赤ちゃん言葉になる。犬のことを、一生「ワンワン」と言い続ける人はいない。いずれは、「ワンワンって犬のことだな」と、言葉遣いも年相応になっていく。赤ちゃん言葉は決して悪いことではない。「もっと話したい」「もっとパパ・ママに聞いてほしい」という意欲を育てることの方が大切である。

### 3 言葉の発達を促す関わり方

- ・ 子どもの視線の先にある事物・していることについて話す
- ・ 子どもの気持ちを代弁したり表現のモデルを示したりする
- ・ 体を動かす遊びを通して、心が動いて思わず声が出るようにする
- ・ 生活の自然な流れの中で語りかける→「バイバイ」「いただきます」
- ・ 同じ流れの繰り返しを取り入れる（例 「おおきなかぶ」の絵本）
- ・ 選択肢を与える（二者択一→3つ→複数→自分で決める）
- ・ 子どものレベルよりもほんの少し先に行くモデルを示す  
→子ども：「ワンワン」 大人：「おおきいワンワンだね」「しろいワンワンいるね」



子どもから言葉を引き出すのではなく、思わず言葉が出てくるような雰囲気づくりと信頼関係を築くこと大切です。また、「もう一度言ってごらん」「ゆっくり話してごらん」は逆効果になることがあるので、間違いを指摘するよりも、大人が正しい発音で話し掛けましょう。



- ・ 「保護者との関わり方が難しい、子どものことを保護者にどう伝えたらよいか悩んでいる」等、現場の先生方の保護者支援の悩みに応えるために、本校では「保護者支援ガイド」を発行しました。
- ・ 主な内容は、保護者の障害受容の過程、支援のポイント、支援のQ&A、保護者の声、コラムです。
- ・ すでに本校ホームページ上で紹介していますので、保護者支援に役立ててほしいと思います。  
ご不明な点があれば、本校（加賀谷勝）までご連絡ください。